

# 令和2年度 【姫路市】認知症地域支援推進員活動報告

姫路市の認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：14名

（保健センター4名、地域包括支援課2名、地域包括支援センター8名）

2 認知症地域支援推進員の役割

認知症の人とその家族に対し、理解のあるまちづくりの推進

○地域包括支援課

地域包括ケアシステムの構築

地域包括支援センターの支援

○保健センター

認知症初期集中支援事業（訪問評価チームの運営）

認知症に理解のある事業所に対する取り組み支援

認知症ケアパスの作成、運営

○地域包括支援センター

認知症の人の退院支援等に関わる医療介護の連携

認知症に対する住民理解の啓発

認知症サロンの運営支援

認知症ケアパスの作成、運営

報告者氏名：小林由美

# 【姫路市】認知症施策

## 普及啓発

### 認知症に対する理解を深める活動

認知症サポーター養成講座による市民、事業所への啓発  
認知症見守り・SOSネットワークの推進

### 地域にある住民主体の集いの場の情報収集と集いの場の運営支援 家族への支援

認知症サロンへの支援及び高齢者の役割の提供

### 認知症に対する適切な相談体制の充実

### 認知症初期集中支援事業、地域ケア個別会議等の開催

- ・早期から専門的なマネジメントを実施し、地域での暮らしを支える。
- ・支援策や予防策を介護関係者と共有し、地域のケア力の向上を図る。

### 認知症の症状に応じた切れ目ない支援

- ・認知症ケアパス（全市版の周知、地域版の作成）
- ・認知症の人の入退院時の連携体制の構築

### 認知症に対する適切な相談機能の充実（再掲）

## 介護者支援

### 家族への支援（再掲）

### 地域課題の共有と施策化

地域ケア会議等の運営による地域課題の共有と施策化の推進

### 認知症に対する理解を深める活動（再掲）

### 地域にある住民主体の集いの場の情報収集と集いの場の運営支援（再掲）

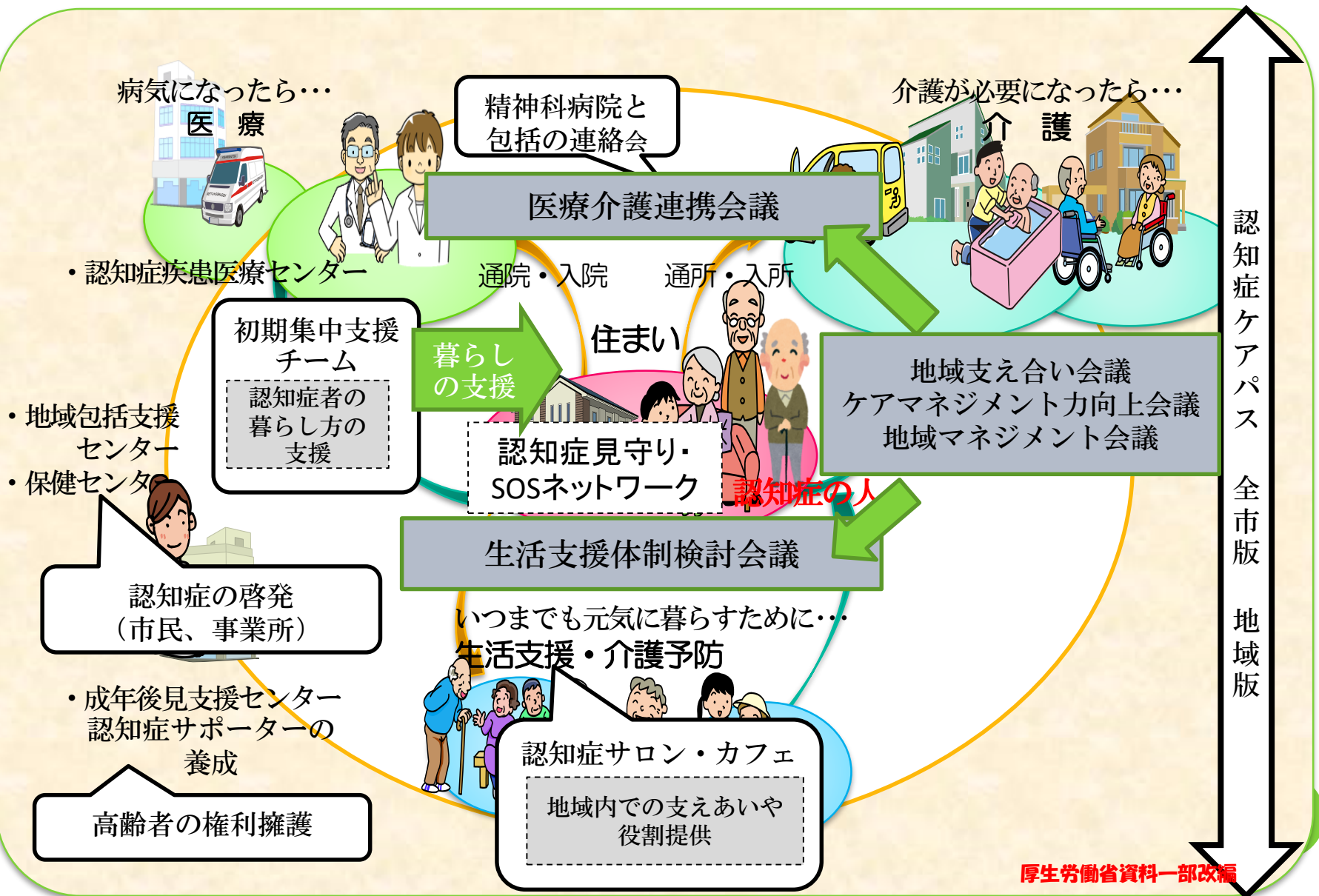
### 家族への支援（再掲）

### 認知症ケアパスの周知（再掲）

### 認知症にやさしい事業所の周知

## 地域づくり

# 【姫路市】認知症施策全体図



# 【姫路市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告 テーマ番号< 8 > 認知症サロンの見直し

## ○ 令和元年度までの認知症サロン

<開始> H26年7月

<位置づけ>

- ・ 認知症の人と家族が地域住民とともに過ごせる継続的な集いの場
- ・ 認知症になっても集える場

<現状>

高齢者が継続的に集い、認知症への理解を深めるとともに、交流することで社会的孤立を防止している。

<課題>

- ・ 登録基準が明確でなく、当事者である認知症の人や家族が参加しやすい体制になっていない。
- ・ 地域包括支援センターが、立ち上げと活動継続を支援しているが、支援策が明確化できていない。  
⇒令和2年度に見直しを実施。



# ○ 令和2年度の具体的見直しについて

## <ねらい>

- ・登録基準を明確にし、地域包括支援センターの参加継続支援策を明確化することで、住民主体の通いの場としての機能を強化する。
- ・当事者である認知症の人や家族が参加しやすい体制とする。

## <見直し内容>

### 1 登録制度の創設

認知症施策推進大綱を推進するため、活動内容等の基準を定めた要綱を設置し、基準を満たすサロンの登録制度を創設する。

### 2 運営費助成制度の見直し

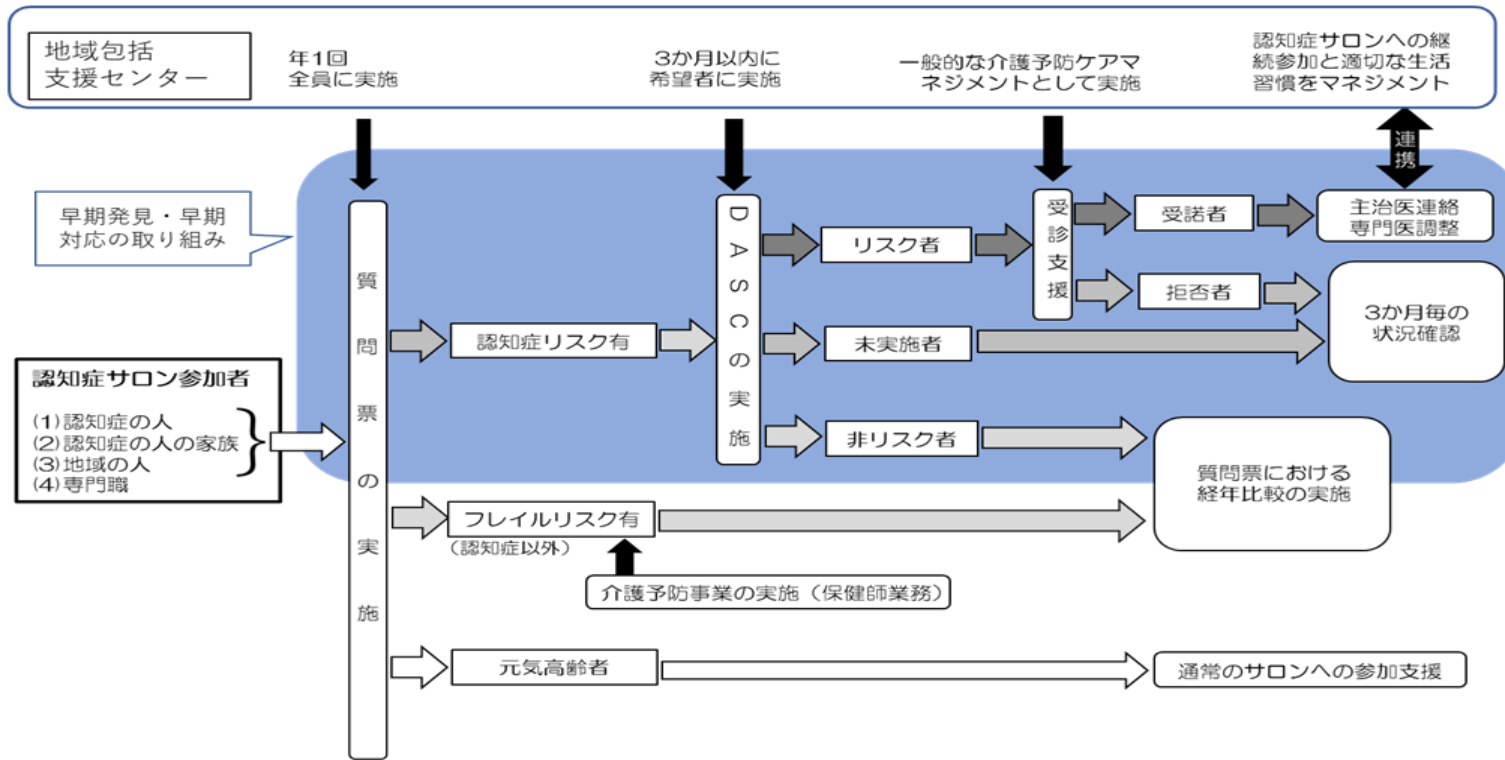
登録した認知症サロンのうち、助成申請を行ったサロンに対し、運営費の助成を行う。

### 3 地域包括支援センターによる継続支援に関する体制の整備

- ・後期高齢者質問票等の実施により、サロン参加者の中で認知機能低下の恐れがある人を把握し、受診につなげるとともに、継続参加支援を強化する。

- ・生活習慣や基礎疾患と認知症との関係や影響を検証し、施策への反映を検討する。

## 認知症サロンにおける支援フロー



※それぞれの参加者の状況に応じた継続参加支援をおこないます。

## 令和2年度末登録サロン数 98グループ

うち、58グループにおいて、後期高齢者質問票及びDASC実施。  
 (コロナ禍のため、休止等で実施できないグループも多かった。)

最後に… (今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い)

コロナ禍のため、認知症サロンの開催が難しかった。認知症サロン等の通いの場への参加ができなかったことで、認知機能低下がみられる方も多い印象があった。コロナ禍での認知症サロンの運営・継続支援を工夫し、認知症支援を継続していく必要がある。